

あいの実 小平通信

～あんず・りんご・かりん～



気温の変動が激しかった4月が終わり、太陽が顔を出すともう初夏の陽気です。この連休は遠方へ旅行に行かれたり、久しぶりにご親戚で集まれたかたも多いと思います。

5月8日から新型コロナの感染症の位置づけが5類へ移行するのに先立ち、屋外ではマスクなしの日常が戻りつつあります。あいの実小平では重症化リスクの高いご利用者もいらっしゃるため、施設の利用時の感染対策は当面の間、今まで通りといたします。後日、別途通知させていただきますのでご確認ください。

すでにお知らせしてありますように、この「あいの実 小平通信」が今年度4月号よりあいの樹のホームページに掲載されています。あいの樹のほかの通所施設のおたよりも載っていますので是非ご覧ください。また、お知り合いで当法人の通所施設ご利用に興味のあるかたがいらっしゃいましたら、参考に閲覧を紹介いただくと幸いです。

今月は法人の虐待防止委員会が開かれます。毎年12月に虐待・身体拘束についての研修を行い、その後各事業所で知識を深めています。ケアのなかでの虐待につながる「小さな出来事」はその都度話し合い、常に意識できるよう努めております。虐待に限らず、ご不明、ご不安なことなどありましたら各事業所管理者まで相談させていただきますようよろしくお願い致します。

NEW FACE



看護師の
みやおか えみこ
宮岡 恵美子です。

よろしくお願ひします！

職員

コラム

おはなしの実

生活介護かりんの管理者兼サービス管理責任者をしております薄 由美（うすき ゆみ）と申します。

社福）あいの樹に入職して早いもので11年目になります。ホームヘルパーに始まり相談支援専門員、放課後等デイサービスの管理者兼児童発達支援管理責任者、そして現在に至るまで、ずっと障がい児（者）に関わってきました。とにかく子どもが大好きで、笑顔を見ると胸がキュンとなります。どうしたら一人一人と意思疎通が図れるか試行錯誤の毎日です。生活介護「かりん」は、この4月で3年目に突入しました。特別支援学校の卒業生が主な利用者なので、在籍16名の平均年齢が21歳と、とてもフレッシュです。18歳を過ぎれば成人となり、「大人として対応しなくては」と思いながらも、つい愛称で呼んでしまい日々反省しています。

生活介護は、卒業後学校の代わりに生活のベースとなるところです。

毎日身支度を整えて通所し、集団生活の中で社会性を学んでいきます。また、重症心身障害という特性のため、機能維持のためのリハビリが必要です。そのリハビリの一つが入浴です。洋服の着脱や洗体時に手足を動かし温かいジャグジーの湯につかると、末端まで冷え切った手足がピンク色に温まり、筋緊張もほぐれて、みんな気持ちよさそうな顔になります。ご家族の介護軽減にもなるので皆さんに喜ばれています。子どもの成長と共に親も齢を重ねていきます。毎日普通にできていたことが、辛くなってくるが増えています。当法人の理念である「自分がして欲しいように、他の人にもしまししょう。」これは、利用者はもちろん、利用者を支えるご家族にも当てはまることです。一日でも長く、住み慣れた地域でご家族と共に生活できるように、サポートしていきたいと思っております。とはいえ、まだまだ必要なサービスや資源が不足しているのが現状です。今後も保護者の皆さまと一緒に支援の方法を考えたり、行政に声を上げていきたいと思っております。